

Symantec™ Mail Security 8.0.5 for Domino® インストー ルガイド



Mail Security for Windows のインストール

この文書では以下の項目について説明しています。

- [Mail Security](#) をインストールする前に
- アップグレードする場合
- システムの必要条件
- [Mail Security](#) のインストールについて
- インストールウィザードを使った製品のインストール
- サイレントインストールの実行
- インストール後のタスク
- 整合性を承認するための [Mail Security](#) データベースへの署名
- 無制限エージェントを実行する権利の認可
- [Mail Security](#) へのアクセス
- [Mail Security](#) データベースへのアクセスの制限
- SMSDOM 設定の複製を使って [Symantec Mail Security](#) を DPAR にインストールする
- [Mail Security](#) のアンインストール

Mail Security をインストールする前に

Symantec Mail Security 8.0.5 for Domino をインストールする前に、サイトの環境がシステムの必要条件を満たしていることを確認してください。製品のインストールを行う管理者は、レジストリとファイルシステムに対する読み取りと書き込みが可能なフルアクセス権限を持っている必要があります。

p.8 の「[システムの必要条件](#)」を参照してください。

Mail Security インストールプログラムは Windows のレジストリを読み込んで Lotus Domino サーバーとデフォルトのデータフォルダを検索します。Mail Security のレジストリキーのほか、Mail Security は次のディレクトリにファイルをインストールします (新規のディレクトリは必要に応じて作成されます)。

インストールフォルダを [表 1-1](#) に示します。

表 1-1 インストールフォルダ

フォルダ	説明
[Domino バイナリフォルダ]	Mail Security のエンジン
[Domino データフォルダ]	Mail Security データベーステンプレート (sav.ntf、savlog.ntf、savquar.ntf、savdefs.ntf)
[Domino データフォルダ]¥SAV	Mail Security データベース (sav.nsf、savlog.nsf、savquar.nsf、savhelp.nsf) Mail Security が動作している他の Domino サーバーにウイルス定義を複製する場合、ここに定義データベース (savdefs.nsf) が作成されます。
Windows (32 ビット): ¥Program Files¥Common Files¥Symantec Shared¥VirusDefs Windows (64 ビット): ¥Program Files (x86)¥Common Files¥Symantec Shared¥VirusDefs	ウイルス定義ファイル (すべてのシマンテック製品で使います)

フォルダ	説明
¥Program Files¥Symantec¥SMSDOM または ¥Program Files (x86)¥Symantec¥SMSDOM	標準スパム対策の定義ファイル、Dynamic Document Review (DDR) フォルダ、圧縮解凍エンジンファイル、ファイルタイプ検出用のシグネチャファイル、Symantec Premium AntiSpam 関連のファイル、添付ファイルの内容をスキャンするためのファイル、Rapid Release スクリプト、README.TXT ファイル、バージョンサポート方針に関するファイル、PDF 版の『Symantec Mail Security 8.0.5 for Domino 実装ガイド』、『Symantec Mail Security 8.0.5 for Domino インストールガイド』(Windows)、『Symantec Mail Security 8.0.5 for Domino Multi-Platform Edition インストールガイド』(非 Windows)
¥Program Files¥Common Files¥Symantec Shared¥Licenses または ¥Program Files (x86)¥Common Files¥Symantec Shared¥Licenses	Symantec ライセンスファイル シマンテック製品のライセンスをインストールすると、この Licenses フォルダにライセンスファイルが保存されます。
Windows (32 ビット): ¥Program Files¥Common Files¥Symantec Shared¥Java LiveUpdate Windows (64 ビット): ¥Program Files (x86)¥Common Files¥Symantec Shared¥Java LiveUpdate	ウイルス定義ファイルとプログラムの更新版をダウンロードする、プラットフォームに依存しない LiveUpdate 技術(すべてのシマンテック製品で使います)

同じサーバー上に複数の Lotus Domino パーティションがある場合、インストールプログラムは各パーティションを検出して Mail Security のインストール先パーティションを指定できるようにします。

Windows クラスタコンピュータ上でパーティション分割されているサーバーに Mail Security をインストールする場合、コンピュータに Mail Security をインストールしたことがなくても、インストールプログラムはどちらの Mail Security データベースを保持するかを尋ねるメッセージを表示します。どちらのオプションを選択しても、インストールは正常に続行します。

Mail Security は、同一コンピュータ上で稼働中の複数のバージョンの Domino サーバーを保護することはできません。最も新しくインストールされたバージョンの Domino のみが保護されます。

最大限の安全性を確保するには、Mail Security 拡張マネージャの DLL ファイル (nnem.dll) を他のサードパーティ Domino 拡張マネージャより先にロードする必要があります。notes.ini ファイル内で nnem.dll が EXTMGR_ADDINS パラメータの最初のエントリになっていることを確認してください。

一部のサードパーティソフトウェアは Domino アドインタスクとして提供され、Windows オペレーティングシステム上のサービスとして実行されます。Domino サーバーが起動する前にこれらのサービスが開始されると Mail Security 拡張マネージャの DLL ファイルがロードされなくなる可能性があります。したがって、これらのプロセスは Domino サーバーが起動した後に開始するように設定してください。

アップグレードする場合

SMSDOM 4.1、5.1、7.5、8.0 から SMSDOM 8.0.5 (32 ビット) へアップグレードできます。Mail Security の以前にインストールされたどのバージョンからでも、Mail Security の 64 ビットバージョンへアップグレードすることはできません。

SMSDOM の 32 ビットバージョンから 64 ビットバージョンへの移行に関する直接サポートは提供されません。SMSDOM の 32 ビットバージョンから 64 ビットバージョンへ移行するには、次の手順を実行してください。

SMSDOM の 32 ビットバージョンから 64 ビットバージョンへ移行するには

- 1 SMSDOM の 32 ビットバージョンをアンインストールします。ただし、この処理中 SMSDOM データベースを保持できます。
- 2 Symantec Endpoint Security (SEP) または Symantec Antivirus がコンピュータ上にインストールされていない場合、以前の SMSDOM の 32 ビットバージョンのウイルス定義が削除されたことを確認します。

これらのウイルス定義は、Symantec SharedVirusDefs フォルダにあります。

- 3 32 ビット Domino サーバーを 64 ビットにアップグレードしたことを確認します。
- 4 SMSDOM の 64 ビットバージョンを 64 ビット Domino サーバーへインストールします。

メモ: Premium AntiSpam は Windows プラットフォーム上の Symantec Mail Security for Domino (32 ビット) でのみサポートされます。Mail Security を 64 ビットにアップグレードする場合、既存の Premium AntiSpam ライセンスは無効になります。

Mail Security はバージョン 4.x 以降からのアップグレードのみをサポートします。バージョン 3.x 以前を実行している場合、その製品をアンインストールしてからバージョン 8.0.5 をインストールしてください。

バージョン 8.0.5 にアップグレードするための必要条件を [表 1-2](#) に示します。

表 1-2 アップグレードの必要条件

バージョン	アップグレードの必要条件
4.0	なし
4.1、5.x、7.5、または 8.0x	Symantec Premium AntiSpam が有効になっている場合は、バージョン 8.0.5 をインストールする前に無効にしてください。

バージョン 4.x 以降からのアップグレードの場合、旧来のデータベースをアップグレードできます。インストール処理中に保持するように選択したデータベースは、Lotus Domino サーバーを次に開始したときにアップグレードされます。Domino サーバーのコンソールメッセージを表示して以前のデータベースが正しくアップグレードされたことを確認できます。新しいデータベースはテンプレートから作成されてデフォルトの Data フォルダの SAV サブフォルダに入ります。

バージョン 4.x からのアップグレード後に修正されるクエリ属性またはフィールドを [表 1-3](#) に示します。

表 1-3 バージョン 4.x のクエリアップグレード値

属性またはフィールド	バージョン 4.x の値	バージョン 8.0.5 の値
[実行間隔]	[3 カ月単位]	値は[月単位]に設定されます。

属性またはフィールド	バージョン 4.x の値	バージョン 8.0.5 の値
[実行日は]	該当なし	[実行間隔]が[日単位]である場合、 [実行日は]は選択した週日に設定されます。 [実行間隔]が[週単位]であった場合、 [実行日は]はアップグレードを実行した曜日にデフォルト設定されます。
[出力の種類]	[概略の合計のみ]	値は[概略]に設定されます。
[出力の種類]	[詳細レポート]	値は[管理の概略]に設定されます。
[出力の種類]	[詳細レポートと概略の合計]	値は[詳細]に設定されます。
[出力形式]	[XML]	[出力の種類]が[概略の合計のみ]または[詳細レポート]である場合、[出力形式]は[HTML]に設定されます。
[ファイル名]	任意の値	ファイルの拡張子は削除されます。新規のレポートを生成すると、出力のファイル名が新しい形式になります。
[作成者]	任意の値	値はデフォルト値の[任意の作成者]に設定されます。
[サーバー]	任意の値	値はデフォルト値の[すべてのサーバー]に設定されます。
[適用した処理]	[無視した文書]	値は[監査/配信した文書]に設定されます。
[適用した処理]	[クリーニングした文書]	値は[修復した文書]に設定されます。
[適用した処理]	[削除した添付ファイル/文書]	値は[削除した添付ファイル/文書]に設定されます。
[ウイルス名選択]	任意の値	値は削除されました。バージョン 8.0.5 では、レポートクエリはすべての脅威に適用されます。

システムの必要条件

Mail Security のインストールを行うユーザーには、Windows と Lotus Domino サーバーに対する管理者レベルの特権が必要です。Domino サーバーは IBM/Lotus が指定するガイドラインに沿って適切に調整されている必要があります。

Mail Security をインストールするには、次の最小必要条件を満たしている必要があります。

オペレーティングシステム	<p>SMSDOM の 32 ビットバージョン:</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ Windows Server 2003 (32 ビットまたは 64 ビット) ■ Windows Server 2008 (32 ビットまたは 64 ビット)
	<p>SMSDOM の 64 ビットバージョン:</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ Windows Server 2003 (64 ビット) ■ Windows Server 2008 (64 ビット)
Lotus Domino	<p>SMSDOM の 32 ビットバージョン:</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ Domino 7.x または 8.x (32 ビット) <p>SMSDOM の 64 ビットバージョン:</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ Domino 8.x (64 ビット)
Lotus Notes	Lotus Notes Client 6.0.x、6.5.x、7.0.x、8.x
プロセッサ	1 GHz Pentium またはそれ以上
メモリ	<p>512 MB</p> <p>パフォーマンスはサーバーの負荷に依存します。</p>
インストール用のディスク容量	250 MB
処理用の空きディスク容量	<p>最低 300 MB</p> <p>インストール後に一時ファイルの場所を変更できます。スキャン中にファイルを処理するディレクトリを指定する方法については、『Symantec Mail Security 8.0.5 for Domino 実装ガイド』を参照してください。</p>
ハードウェア	DVD-ROM ドライブ
インターネットブラウザ	最新の Service Pack が適用された Microsoft Internet Explorer 6.0
JRE	<p>SMSDOM の 32 ビットバージョン:</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ JRE 1.5x (32 ビット) <p>SMSDOM の 64 ビットバージョン:</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ JRE 1.5x (64 ビット)

システムの必要条件に加えて、**Java Runtime Environment (JRE)**と**JCE**無制限強度の管轄ポリシーファイルを有効にする必要があります。これらのポリシーファイルは**JRE**のバージョンによって異なり、**Sun Microsystems**社の**Web**サイトからダウンロードできます。また、**LiveUpdate**がダウンロード時にファイルのキャッシュ機能をサポートするためには、さらに約**2 GB**のハードディスク容量が必要です。

Mail Security のインストールについて

Mail Securityは日常の保守が少なくなるデフォルト設定(カスタマイズ可能)でインストールされます。たとえば、アウトブレイク管理のしきい値限度がインストール中に設定されるため、設定された期間に**Lotus Domino**サーバー上で検出される疑わしい文書の数が多すぎると通知を受信します。これらのデフォルト設定は変更できます。

同じサーバー上に複数の**Lotus Domino**パーティションがある場合、インストールプログラムは各パーティションを検出して**Mail Security**のインストール先パーティションを指定できるようにします。

メモ: **Windows** クラスタコンピュータ上でパーティション分割されているサーバーに**Mail Security**をインストールする場合、コンピュータに**Mail Security**をインストールしたことがなくても、設定プログラムはどちらのデータベースを保持するかを尋ねるメッセージを表示します。どちらのオプションを選択しても、設定プログラムは正常に続行します。

Lotus Dominoサーバーが再起動すると、次のことが行われます。

- | | |
|-------------|--|
| 新規インストールの場合 | Mail Security データベースがテンプレートから作成されて、デフォルトの Data フォルダの SAV サブフォルダに配置されます。 |
| アップグレードの場合 | インストール処理中に保持することを選択したデータベースがアップグレードされます。 Domino サーバーのコンソールメッセージを表示して以前のデータベースが正しくアップグレードされたことを確認できます。

新しいデータベースはテンプレートから作成されてデフォルトの Data フォルダの SAV サブフォルダに入ります。

p.6の「 アップグレードする場合 」を参照してください。 |

『**Symantec Mail Security 8.0.5 for Domino 実装ガイド**』のPDF版と**README**テキストファイルはデフォルトのフォルダにあります。

Mail Securityのインストールが終了するとインストール後のタスクを実行できます。

p.16の「[インストール後のタスク](#)」を参照してください。

製品DVDにあるインストールウィザードを使って**Mail Security**のインストールやアップグレードを行うことが可能です。複数のコンピュータ上で製品のインストールやアップグ

レードを行う場合は、サイレントインストールを実行することによってインストールの手順を簡素化することができます。

p.11の「インストールウィザードを使った製品のインストール」を参照してください。

p.12の「サイレントインストールの実行」を参照してください。

インストールウィザードを使った製品のインストール

製品 DVD にあるインストールウィザードを使って **Mail Security** のインストールやアップグレードを行うことが可能です。**Mail Security** のインストールとアップグレードでは **Windows Installer** サービスが利用されます。インストールを開始する前にこのサービスが有効になっていることを確認してください。

インストールを準備するには

- 1 **Symantec Premium AntiSpam** を使用している場合は無効にします。
Symantec Premium AntiSpam を有効または無効にする方法については、『**Symantec Mail Security 8.0.5 for Domino 実装ガイド**』を参照してください。
- 2 **Lotus Domino** サーバーをシャットダウンします。同じコンピュータ上で **Lotus Notes** クライアントを実行している場合は、これもシャットダウンする必要があります。

Mail Security をインストールするには

- 1 DVD-ROM ドライブに **Mail Security** インストール DVD を挿入します。
インストールプログラムが自動的に起動します。自動的に起動しない場合は、インストール DVD から `cdstart.exe` を実行します。
- 2 **Mail Security** のインストール画面で [**Symantec Mail Security 8.0.5 for Domino (32ビット) のインストール**] をクリックし、**SMSDOM** の 32 ビットバージョンのインストール処理を開始します。
- 3 **Mail Security** のインストール画面で [**Symantec Mail Security 8.0.5 for Domino (64ビット) のインストール**] をクリックし、**SMSDOM** の 64 ビットバージョンのインストール処理を開始します。
- 4 画面の指示を読んでから続行するために [次へ] をクリックします。
シマンテック社のソフトウェア使用許諾契約の条項に同意することを指定してから [次へ] をクリックします。
使用許諾契約の条項に同意しないとインストールを続行できません。
- 5 インストール先のフォルダパネルで次のいずれかの操作をします。
 - 製品をデフォルトの場所にインストールするには [次へ] をクリックします。
 - 製品を異なる場所にインストールするには [変更] をクリックし、インストールフォルダの場所を選択して [OK] をクリックしてから [次へ] をクリックします。

インストールフォルダは ¥SMSDOM で終わる必要があります。

このパネルは新規インストールまたはバージョン 4.0 からのアップグレードを行う場合にのみ表示されます。

- 6 同じサーバー上に複数の Lotus Domino パーティションがある場合は、次のようにします。

- パーティションの選択パネルで、Mail Security で保護するパーティションを選択します。
- 追加のパーティションを選択するには[パーティションの追加]をクリックしてから[データフォルダの選択]ダイアログボックスでパーティションのパスを入力するかパスを選択するためにフォルダを参照して[OK]をクリックします。

- 7 Mail Security をアップグレードする場合は、以前のバージョンのデータベース設定を保持するかどうかを質問するメッセージが表示されたら、保持したいデータベースを選択します。

定義データベースの設定を保持するオプションは Mail Security が製品のインストール先のサーバー上に定義データベースが存在することを検出した場合にのみ利用できます。

利用可能なすべてのデータベースにデフォルトでチェックマークが付きます。

p.6 の「アップグレードする場合」を参照してください。

- 8 LiveUpdate をインストールする場合は、LiveUpdate のインストールパネルで [LiveUpdate のインストール] オプションを選択します。Domino Server に LiveUpdate をインストールしない場合、定義を更新するにはデータベースの複製機構を使う必要があります。複数のサーバーを管理する方法については、『Symantec Mail Security 8.0.5 for Domino 実装ガイド』を参照してください。

- 9 [次へ]をクリックしてセットアップの完了パネルに達するまで残りのパネルを読み込み、[完了]をクリックします。

- 10 メッセージが表示されたらコンピュータを再起動し、次に Lotus Domino サーバーを起動します。

サイレントインストールの実行

コマンドラインからサイレントモードで Mail Security をインストールまたはアップグレードできます。その後はインストール処理の監視やインストールプログラムとのやり取りを行わずに製品をインストールできます。

サイレントアップグレードを実行するときに既存の Mail Security データベースを保持するかどうかを指定するパラメータを表 1-4 に示します。

表 1-4 データベースアップグレードのパラメータ

コマンド	説明	パラメータ
SMS_KEESETTINGS	既存の設定データベースを保持するかどうかを指定します。	0 = 既存のデータベースを保持しない。 1 = 既存のデータベースを保持する。 デフォルト値は 1 です。
SMS_KEELOG	既存のログデータベースを保持するかどうかを指定します。	0 = 既存のデータベースを保持しない。 1 = 既存のデータベースを保持する。 デフォルト値は 1 です。
SMS_KEEQUAR	既存の検疫データベースを保持するかどうかを指定します。	0 = 既存のデータベースを保持しない。 1 = 既存のデータベースを保持する。 デフォルト値は 1 です。
SMS_KEEDEFs	既存の定義データベースを保持するかどうかを指定します。	0 = 既存のデータベースを保持しない。 1 = 既存のデータベースを保持する。 デフォルト値は 1 です。

これらの値を指定しなかった場合は、デフォルト値の 1 が使われます (既存のデータベースが保持されます)。

メモ: サイレントインストールでは、コンピュータ上のすべての Domino パーティションに Mail Security がインストールされます。

サイレントインストールについて詳しくは次の URL にある InstallShield® の Web サイトの記事を参照してください。

- <http://support.installshield.com/kb/view.asp?articleid=Q105473>
- <http://support.installshield.com/kb/view.asp?articleid=Q102572>

サイレントインストールを実行するには

- 1 Mail Security をインストールするコンピュータ上で次の作業を行います。

- Symantec Premium AntiSpam を使用している場合は無効にします。
Symantec Premium AntiSpam を有効または無効にする方法については、
『Symantec Mail Security 8.0.5 for Domino 実装ガイド』を参照してください。
 - Lotus Domino サーバーをシャットダウンします。同じコンピュータ上で Lotus Notes クライアントを実行している場合は、これもシャットダウンする必要があります。
- 2 DVD-ROM ドライブに Mail Security DVD を挿入します。
 - 3 Windows DOS プロンプトでカレントディレクトリを DVD-ROM 上の次のディレクトリに変更します。
 - 32 ビット Windows 上の SMSDOM の 32 ビットバージョン:
¥SMSDOM-8.0.5¥Windows32¥SMSDOM
 - 64 ビット Windows 上の SMSDOM の 32 ビットバージョン:
¥SMSDOM-8.0.5¥Windows32¥SMSDOM-x64

■ 64 ビット Windows 上の SMSDOM の 64 ビットバージョン:
¥SMSDOM-8.0.5¥Windows64

4 次のコマンドを入力して、インストーラをサイレントモードで実行します。

クリーンインストールを行う場合 `setup /s /v"/qn INSTALLDIR=<パス>
SMS_INSTALLLIVEUPDATE=<0/1>"`

<パス>の部分にはインストール先フォルダを指定します。
LiveUpdate のインストール用の値を指定しなかった場合は、デフォルト値の 0 が使用され、LiveUpdate はインストールされません。

64 ビット SMSDOM に対して
SMS_INSTALLLIVEUPDATE=1 を指定した場合、もう 1 つのオプションパラメータを追加できます。このパラメータは SMS_JAVAPATH=<java へのパス> であり、<java へのパス> には java.exe を含むフォルダへのパスを指定します。このパラメータを指定しない場合は、インストーラが java の検索を試行します。

アップグレードを行う場合 `setup /s /v"/qn INSTALLDIR=<パス>
SMS_INSTALLLIVEUPDATE=<0/1>
SMS_KEEPPSETTINGS=<0/1>
SMS_KEEPPLOG=<0/1>
SMS_KEEPPQUAR=<0/1>
SMS_KEEPPDEFS=<0/1>"`

<パス>の部分にはインストール先フォルダを指定します。
LiveUpdate のインストール用の値を指定しなかった場合は、デフォルト値の 0 が使用され、LiveUpdate はインストールされません。

64 ビット SMSDOM に対して
SMS_INSTALLLIVEUPDATE=1 を指定した場合、もう 1 つのオプションパラメータを追加できます。このパラメータは SMS_JAVAPATH=<java へのパス> であり、<java へのパス> には java.exe を含むフォルダへのパスを指定します。このパラメータを指定しない場合は、インストーラが java の検索を試行します。

既存のデータベースを保持するための値を指定しなかった場合は、デフォルト値の 1 が使用され、既存のデータベースが保持されます。

インストール後のタスク

Mail Security のインストールやアップグレード後に実行可能なインストール後のタスクを表 1-5 に示します。

表 1-5 インストール後のタスク

タスク	説明
README.TXT ファイルを読む	このテキストファイルには Mail Security についての互換性情報と既知の問題が書かれています。README.TXT ファイルはインストール DVD と次のフォルダにあります。 ¥Program Files¥Symantec¥SMSDOM または ¥Program Files (x86)¥Symantec¥SMSDOM
Mail Security データベースに署名する	初めてデータベースを開く前に信頼できる Notes ID ファイルで Mail Security データベースに署名してください。 p.17 の「 整合性を承認するための Mail Security データベースへの署名 」を参照してください。
無制限エージェントを実行する権利を認可する	無制限エージェントの有効化、無効化、または修正する権利をユーザーに与えることができます。 p.18 の「 無制限エージェントを実行する権利の認可 」を参照してください。
Mail Security データベースにアクセスする	Mail Security データベースを開いてからワークスペースに保存するとアクセスしやすくなります。 p.19 の「 Mail Security へのアクセス 」を参照してください。
アクセス制御を設定する	アクセス制御設定では誰が Mail Security データベースにアクセスできるかを設定します。 p.20 の「 Mail Security データベースへのアクセスの制限 」を参照してください。
ライセンスをアクティブにする	ウイルス定義ファイルの更新版を受信し、Mail Security のスキャン機能を操作するにはコンテンツライセンスと製品ライセンスを購入してアクティブにする必要があります。ライセンスをアクティブ化する方法については、『Symantec Mail Security 8.0.5 for Domino 実装ガイド』を参照してください。
Domino パーティションサーバー (DPAR) へのインストール	Domino パーティションサーバーでは、すべてのパーティションが同じ Domino および SMSDOM のプログラムフォルダを共有し、したがって Domino および SMSDOM の実行ファイルの 1 つのセットを共有します。 p.21 の「 SMSDOM 設定の複製を使って Symantec Mail Security を DPAR にインストールする 」を参照してください。

整合性を承認するための Mail Security データベースへの署名

初めてデータベースを開く前に **Domino** 管理クライアントを使って信頼できる **Notes ID** ファイルでデータベースに署名してください。**Domino** 環境ですべての **Mail Security** 機能が適切に動作するようにするためには、データベースに署名する必要があります。

Mail Security データベースに正しく署名するには、**Domino** 管理クライアントで次のように設定されていることを確認してください。

- すべての設計文書に署名する
- 既存の署名のみを更新しない
- 管理者 ID を使ってすべてのデータ文書に署名する
- 次のように ID を設定する
 - ID は、既存の署名がある文書のみでなく、すべてのデータ文書に署名するために使用できる必要があります。
 - ID は、信頼できる管理者の ID またはサーバー ID にする必要があります。
 - ID には無制限のメソッドや操作を実行する権利が必要です。この権利はすべてのデータベースエージェントを実行するために必要です。
 - データベースの署名に使う ID はワークステーションの実行制御リストつまり ECL (Execution Control List の略) に表示されます。

実行制御リストで信頼できる **Notes ID** が **Notes** クライアントで次の権限を付与されてリストにあることを確認します。

- 現在のデータベースに対するアクセス権
- 環境変数に対するアクセス権
- 外部コードに対するアクセス権
- 外部プログラムに対するアクセス権
- 他のデータベースを読む権限
- 他のデータベースを修正する権限
- データをエクスポートする権限

データベースの署名について詳しくは **Domino Administrator** と **Lotus Notes** のマニュアルを参照してください。

無制限エージェントを実行する権利の認可

Mail Security のエージェントはデータベースサイズの管理や定時クエリーの実行を助けます。ID に署名するユーザーに権利を認可する必要があります。

p.17 の「[整合性を承認するための Mail Security データベースへの署名](#)」を参照してください。

次のエージェントがあります。

ログパーリエージェント

ログデータベースからイベントをパージします。

デフォルトでは脅威インシデントは 365 日後にパージされます。サーバーメッセージと他のインシデントは 30 日後にパージされます。

ログデータベースから自動的に文書を削除する方法については、『[Symantec Mail Security 8.0.5 for Domino 実装ガイド](#)』を参照してください。

検疫パーリエージェント/バックアップパーリエージェント

検疫データベースから項目をパージします。

デフォルトでは検疫のすべての項目が 30 日後にパージされます。

検疫データベースから自動的に文書を削除する方法については、『[Symantec Mail Security 8.0.5 for Domino 実装ガイド](#)』を参照してください。

定時レポートエージェント

ログデータベースで定時クエリーを実行します。

デフォルトではこのエージェントは定時クエリーを 1 日に 1 回実行します。クエリーは完成したレポートビューに送信されます。

カスタム定時レポートを生成する方法については、『[Symantec Mail Security 8.0.5 for Domino 実装ガイド](#)』を参照してください。

ユーザーがエージェントを有効化、無効化、または修正するには、Mail Security が稼動しているサーバーのサーバー文書で無制限エージェントを実行する権利を管理者から与えられている必要があります。

メモ: デフォルトでエージェントは無効です。使いたいエージェントを有効にする必要があります。

無制限エージェントを実行する権利をユーザーに認可するには

- 1 Domino 管理クライアントを開きます。
- 2 [設定]タブの左ペインで[サーバー]をダブルクリックします。
- 3 左ペインの[サーバー]で[すべてのサーバー文書]をクリックします。
- 4 右(ビュー)ペインでMail Securityが稼動しているサーバーをダブルクリックします。
- 5 アクションバーで[サーバーの編集]をクリックします。
- 6 [セキュリティ]タブにある[可能なプログラムの制限]の[制限なしで実行]フィールドでエージェントの有効化、無効化、修正をする権利を認可したいユーザーを追加します。
- 7 アクションバーで[保存して閉じる]をクリックします。

Mail Security へのアクセス

Mail Security は Lotus Notes 環境に統合されて他のデータベースと同じようにアクセスできます。どの Mail Security データベースを開いても左側にナビゲーションペインが表示されます。ナビゲーションペインで任意の Mail Security データベースにアクセスできます。

各 Mail Security データベースにはそのデータベースに固有のオプションがあります。たとえばログデータベースにはサーバーメッセージ、製品情報、インシデントのオプションがあります。ナビゲーションペインには少なくとも読み込みのアクセス権を持つ利用可能なデータベースのオプションのみがあります。たとえば定義データベースを作成していない場合、定義データベースのオプションはナビゲーションペインに表示されません。

定義データベースを作成する場合は、すべての Mail Security データベースと文書を閉じる必要があります。いずれかの Mail Security データベースを開くと、ナビゲーションペインに[ウイルス定義]オプションが表示されます。

定義データベースを作成する方法およびユーザーインターフェースのエラーと問題のトラブルシューティングについては、『Symantec Mail Security 8.0.5 for Domino 実装ガイド』を参照してください。


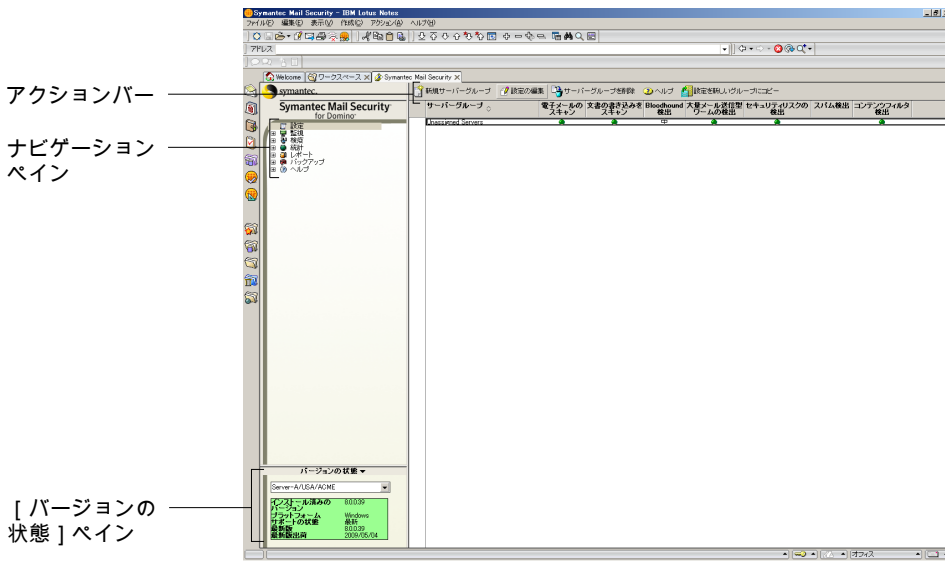
Mail Security コンソールを  1-1 に示します。

図 1-1 Mail Security コンソール



Mail Security にアクセスするには

- 1 Lotus Notes の[ファイル]メニューで[データベース]、[開く]の順に選択します。
- 2 [データベースを開く]ダイアログボックスの[サーバー]で Mail Security をインストールしたサーバーを選択します。
- 3 [データベース]の SAV フォルダで設定データベースである[SMSDOM Settings 8.0]をダブルクリックします。
設定ビューが表示されます。
- 4 Lotus Notes のいずれかのブックマークフォルダまで設定データベースウィンドウのタブをドラッグします。

Mail Security データベースへのアクセスの制限

Lotus Domino 環境でセキュリティを維持するには次のデータベースのアクセス制御リスト(ACL)を設定して Mail Security データベースへのアクセス権を管理者のみに制限してください。

- 設定 (sav.nsf)
- ログ (savlog.nsf)
- 検疫 (savquar.nsf)
- 定義 (savdefs.nsf) (使っている場合)

検疫データベースの場合にはユーザーにロールを割り当てる必要もあります。このロールは各種の検疫ビューに対するアクセスを制限し、誰が文書を検疫から解放できるかを制御します。検疫データベースのアクセス制御を設定する場合には検疫を使うグループとユーザーにロールを割り当てる必要があります。

検疫ビューおよび検疫ロールの割り当てについては、『Symantec Mail Security 8.0.5 for Domino 実装ガイド』を参照してください。

Mail Security データベースへのアクセスを制限するには

- 1 Mail Security 管理用のアカウントにログオンします。
- 2 Lotus Notes で[SMSDOM Settings]データベースを右クリックしてから[データベース]、[アクセス制御]の順に選択します。
- 3 [アクセス制御リスト]ウィンドウで自分自身、グループ、他のユーザーのいずれかを必要に応じて文書の削除権のある管理者としてアクセス制御リストに追加します。
- 4 [-Default-]をクリックします。
- 5 [アクセス権]リストで[なし]を選択します。
- 6 [OK]をクリックします。
- 7 他の Mail Security データベースに対してステップ 1 から 6 を繰り返します。

SMSDOM 設定の複製を使って Symantec Mail Security を DPAR にインストールする

SMSDOM 設定の複製を使って Mail Security を Domino パーティションサーバーへインストールするには

- 1 SMSDOM をすべての Domino パーティションサーバーへインストールします。
- 2 任意の Domino パーティションサーバーを起動します。
これにより、DPAR-1 上に SAV データベースが作成されます。
- 3 他の Domino パーティションサーバーの notes.ini を変更し、サーバータスクから NNTASK エントリを削除します。
- 4 他の Domino パーティションサーバーを起動します。
- 5 DPAR-1 から他の Domino パーティションサーバーへ SAV データベースのレプリカを作成します。
- 6 他の Domino パーティションサーバーの notes.ini を変更し、サーバータスクへ NNTASK エントリを追加します。

- 7 すべての Domino パーティションサーバーを起動します。
- 8 これにより、SMSDOM がすべての Domino パーティションサーバー上で起動し、SAV データベースが複製可能になりました。

Mail Security のアンインストール

Mail Security のセットアップオプションを使うと、既存の Mail Security データベースを保持できます。

Symantec Premium AntiSpam サービスが有効になっている場合は、Mail Security をアンインストールする前に無効にしてください。オペレーティングシステムのイベントログからすべてのイベントログが消去されます。今後必要になった場合に備えて、Mail Security をアンインストールする前にオペレーティングシステムのイベントログのバックアップを作成できます。

Symantec Premium AntiSpam を有効または無効にする方法については、『Symantec Mail Security 8.0.5 for Domino 実装ガイド』を参照してください。

Windows コントロールパネルで製品をアンインストールするには

- 1 Lotus Domino サーバーをシャットダウンします。同じコンピュータ上で Lotus Notes クライアントを実行している場合は、これもシャットダウンします。
- 2 Mail Security をインストールした Domino サーバーの Windows コントロールパネルで [プログラムの追加と削除] をクリックします。
- 3 [Symantec Mail Security 8.0.5 for Domino] をクリックして [削除] をクリックします。確認ダイアログボックスで [はい] をクリックします。デフォルトでは、すべての Mail Security データベースが保持されます。

Windows のプログラムメニューで製品をアンインストールするには

- 1 Lotus Domino サーバーをシャットダウンします。同じコンピュータ上で Lotus Notes クライアントを実行している場合は、これもシャットダウンします。
- 2 Mail Security がインストールされている Domino サーバーで、Windows のスタートメニューから [プログラム]、[Symantec Mail Security for Domino]、[Symantec Mail Security for Domino のアンインストール] の順に選択します。
- 3 Symantec Mail Security 8.0 for Domino パネルで [次へ] をクリックします。
- 4 既存の Mail Security データベースと統計を保持するかどうかを質問するメッセージが表示されたら、保持したいデータベースと統計の説明を選択してから [次へ] をクリックします。
- 5 アンインストールが完了したらインストールウィザードの完了パネルで [完了] をクリックします。